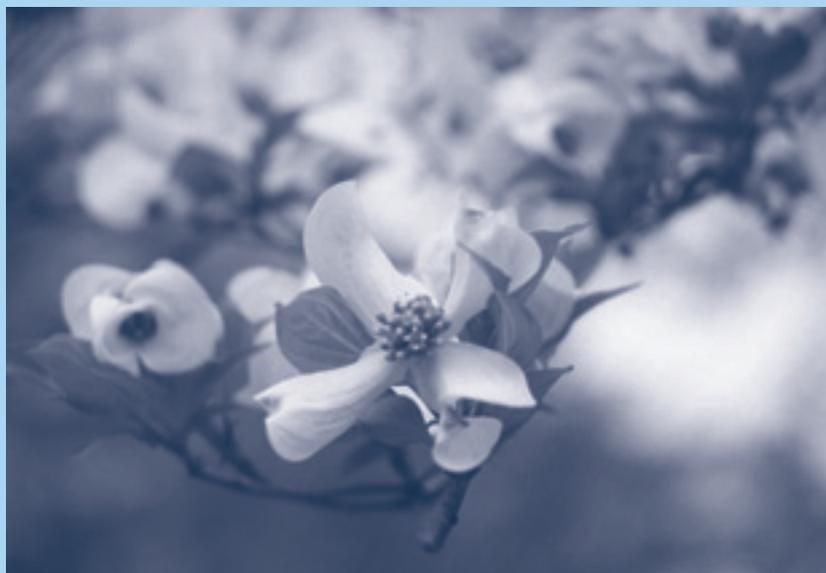


わたしの光の詩  
ピース・ハウスふれんず

September 2010

Issue Number 16



ごあいさつ	3
ピースハウスの役割	4
ピースハウスでの日々	5
ホスピス教育研究所の活動	10
ホスピスサポート活動	12
ピースハウス家族の会	12
入退院状況	13
ホスピスケアを受けるために	14
施設内容とスタッフ	15
収支報告	15



シンボルツリー：花水木

# ごあいさつ

ピースハウス病院は昨年12月から今年2月にかけての3カ月間にわたる大規模修繕を終え、ご利用者の方々にまた緑豊かな自然の中で静かな療養生活を送っていただく環境が整えられました。

さて、ピースハウス病院は1993年の設立以来、「やすらぎの家」であることを標榜し、全人的なホスピスケアの提供を目指してきました。当初は、ピースハウス病院とホスピス教育研究所の2つの施設で行っていた活動も、1999年に「訪問看護ステーション中井」が開設され、病院で患者さんを待ってケアを提供する体制から一歩進めて、在宅で療養する方々のところへ出向いてサービスすることができるようになりました。

そして、本年3月18日、念願の「ピースクリニック中井」が開所式を執り行い、4月1日から活動を始めました。当クリニックは、ちょうど1年前の2009年4月に在宅療養支援診療所プロジェクト委員会（委員長：尹良紀医師）を発足させ、本年1月にそれを引き継いだピースクリニック中井開設準備委員会（委員長：永山淳医師）によって検討を重ねて開設に至ったもので、24時間訪問診療に対応する診療所です。

上記の4施設の有機的な働きにより、中井町および近隣する地域に先に掲げた全人的なホスピスケア、つまり「最適の緩和ケアを、最適の場所で、最適の時期に提供することができる地域緩和ケアネットワークの構築」を展開することができる体制が整いました。今後、これらの施設を利用される方々の視点と率直な評価に耳を傾けつつ、実効を上げられるように一同で努めていきたいと思えます。

さて、私たちの「やすらぎの家」にとって何にも代えがたいのはボランティアの存在です。2010年4月1日現在95名の登録者がおられますが、開設以来16年間にわたりあらゆる場面において活動していただいた大勢のボランティアは、日本で初めての独立型ホスピスとして船出したピースハウス病院を今日まで力強く支えてくださいました。

ボランティアは、ピースハウスでの日々をいとおしみつつ過ごされる方々にアートプログラムや四季折々の行事で彩ってくださっていますが、その一方でアドバンス講座を受講されるなど研鑽をおこたることもありません。引き続き私たちの働きに力をお貸しいただければ幸いです。

財団法人ライフ・プランニング・センター  
理事長 日野原 重明

# ピースハウスの役割

## 理念と基本方針

ピースハウス病院

### 理念

ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時を共にする人は皆それぞれの生き方を尊重する。

### 基本方針

1. 患者が、痛みなどの心身の不快な症状の緩和を得て、穏やかに生きてゆくことができるように全人的ホスピスケアを提供する。
2. 愛する人を失う悲しみやその他の心身の反応は自然なことと考えて、かかわりを持ち始めたときから死別の後にいたるまで患者の家族を支援する。
3. 多職種の職員とボランティアがチームを構成し、互いに協力してケアを提供する。
4. 日本の実状に即したホスピスのモデルとして、より良いケアの実践、研究、教育を進める。

2009年4月1日改訂

ピースハウス病院開設以来17年が経とうとしています。2009年度には大規模修繕をして、装いを新たにすることができました。

ケアを提供するスタッフやボランティアも年毎に少しずつ入れ替わっています。2010年4月から在宅療養支援診療所「ピースクリニック中井」（永山淳院長）も活動を始めました。そのような推移を踏まえて、良い習慣や知識・技術を守り伝え、日々気持ちを新たにケアを提供して行きたいと考えます。

がん対策基本法により、緩和ケアに対する認識が高まり、緩和ケアを提供しやすくなった面もありますが、緩和ケアが医療の一部、ことにがん治療の一環として矮小化されかねない危うさも孕んでいます。

そのような心配を払拭するように、緩和ケアを広めてくれる新たな担い手が次々と加わることを願っています。

院長 西立野 研二

# ピースハウスでの日々

ピースハウスには、年間200名を越す患者さんが入院されますが、そのご家族から、いろいろな場面で、お話をうかがいます。

ここでは、ご家族からいただいたさまざまなお話をもとに、ピースハウスの日常の様子をご紹介します。



## 入院相談

夫の病気が見つかったのは、三年前の秋でした。それからの二年間、無我夢中で病と戦いました。そして、治療を受けていた病院の医師からホスピスを考えてはどうかと言われたときは、とてもとまどいました。

不安な気持ちをいただきながら訪れた初めてのホスピス。医師、看護師、ソーシャルワーカーとの面談では病気のこと、これからの生活のことなど、十分に話し合うことができました。

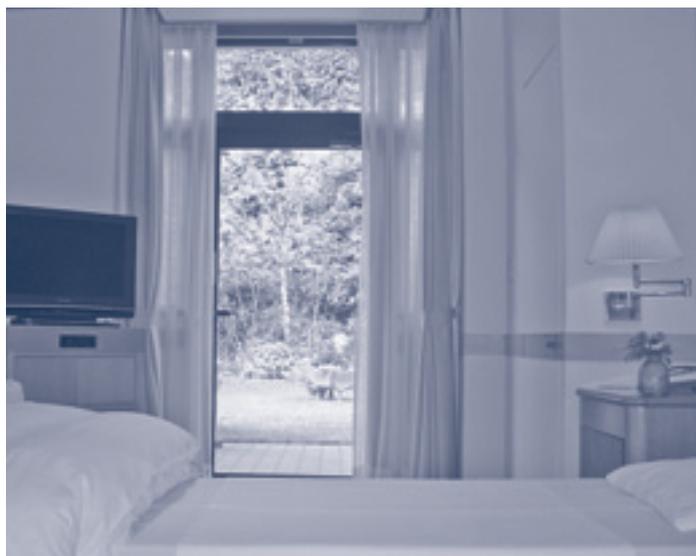
そして、入院。空気の澄んだ冬の朝でした。

## 久しぶりの笑顔

母を悩ませていた痛みや吐き気など、つらい症状が、お薬の調整や食事の工夫など、いろいろと対処していただき、楽になると、母の顔に明るさが戻ってきました。

久しぶりのお風呂、髪も洗っていただき、本当に気持ちよさそう。

病室に戻ると、真っ白なシーツで、きちんとベッドが整えられていました。





## 自然との対話

ある日のこと、夫は「庭に出たい」と言います。車椅子からおりて緑の芝生にすわった夫はその手でじかに土に触れ、そのままじっとしていました。自然と一体になる、ここちよい癒される時間が過ぎていきました。

## 食べる楽しみ

食の細った妻は、前の病院ではほとんど食べられませんでした。

ホスピスに入院して数日、ここでは、食材や盛りつけも工夫してくれるので、箸が進むようです。食堂で一緒にテーブルにつき、おしゃべりをしながらのお昼、楽しい時間です。





## ティータイム

隣のお部屋の患者さんは父と同世代。ティータイムで一緒になると、二人はよくお話しをしていました。

人生について、死について、ビジネスマンだったかつての父が見せたことのなかった深い思索の時間を共にしていました。

## アートプログラム

ホスピスの午後、今日は俳句の会があります。誘われて、夫と一緒に句会に出てみたときのこと、季節の話題、旅先でのエピソード、子供のころの思い出など、話に花が咲きます。

夫がピースハウスで詠んだ句です。

命あることの 嬉しき 夜半の月





## ボランティア

お花の水替えにきてくれたボランティアさん。  
妻と同年代の方のようです。  
元気に活動されるその姿に、少し圧倒され、複雑な気持ちでした。

午後3時、ラウンジでのティータイム、チーズケーキは、男性ボランティアの手作りとのこと、驚くやら感心するやら、話しが弾んだものでした。

## 孫のお見舞い

ホスピスの一日は、孫の録音してくれた「おじいちゃん、おはよう」の目覚ましの声で始まります。ときどき見舞いにくる孫たちは、南側の大きな芝生の斜面でころがるのが大好きです。





## 家で過ごす

夫の病状は安定したようです。

「一度、家に帰ってみる？」と先生からお声がかかりました。

久しぶりの家、見なれた庭の木々、喜ぶ犬。  
訪問診療と看護に支えられて過ごした1ヶ月。  
思ってもみない心やすまる日々でした。  
そして、再びの入院。

## 花の種

あれから7ヶ月、「しのぶ会」の案内状が届きました。

あんなに迷ったことはありません。行くと決心してからも、まだ迷いがありました。

思いきってピースハウスへ出かけてみると、なつかしいみな顔が出迎えてくれました

今、手元に「しのぶ会」のお土産にくださった花の種があります。ピースハウスの庭の花々から採って下さった種です。



# 2009年度ホスピス教育研究所の活動

ピースハウスの2階に位置するホスピス教育研究所は、神奈川県をはじめ全国に向けてのホスピス緩和ケアに関する教育プログラムの提供、院内スタッフ・ボランティアの教育、さらに、国内外の他施設・団体とのネットワーク作りなどを主な業務としています。

また、「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として、年次大会・理事会・専門委員会の開催、全国の緩和ケアの現状調査、講演会の開催、機関紙の発行などを並行して行っています。

ホスピス教育研究所 所長 松島 たつ子

## 1. ターミナルケア人材育成講座の開催

講座名	期日	日数	講師(所属)	参加人数
ホスピス緩和ケア講座	2009年5月～6月	3	西立野研二(ピースハウス病院院長)他9名	延143
ホスピスセミナー がんの終末期における症状とそのマネジメント	2009年10月	1	林章敏(聖路加国際病院緩和ケア科 医長)	77
ホスピスセミナー 患者主体の症状マネジメント	2010年2月	1	荒尾晴恵(大阪大学大学院教授)	33
ホスピスワークショップ がん患者の心理の理解とコミュニケーション	2009年9月 2009年12月	2	栗原幸江(静岡がんセンター心理療法士)	41 56
春期ボランティア講座	2009年5月～7月	6	志村靖雄(ピースハウス病院ボランティアコーディネーター)他7名	13
秋期ボランティア講座	2009年10月～2010年1月	6	志村靖雄(ピースハウス病院ボランティアコーディネーター)他7名	19
ボランティアアドバンス講座	2009年4月～2010年3月	5	寺田紅(日本航空株式会社客室乗務員)他7名	延222
ホスピス公開セミナー (対象:ホスピスケアに関心を持つ個人など)	2009年4月～2010年2月	5	瀬戸ひとみ(ピースハウス病院がん性疼痛看護認定看護師)	延122

## 2. 第17回ホスピス国際ワークショップの開催

期日: 2010年2月6日(土)～7日(日)

テーマ: 緩和ケアにおける全体論  
- 人間性の複雑さに注目して -

講師:

Prof. Malcolm Payne, BA, DipSS, PhD  
Policy and Development Advisor,  
St. Christopher's Hospice, London, UK  
Visiting Professor, Opole University,  
Poland

Dr. Debra Elizabeth Swann, MBBS, MRCP,  
MA  
Consultant in Palliative Medicine,  
St. Christopher's Hospice  
Mayday University Hospital, Croydon,  
London, UK



Prof. Payne



Dr. Swann

内容: ・緩和ケアにおける人間の複雑さ - ホリスティックプラクティス -  
・いろいろな場におけるペインマネジメント  
・人間のためのホリスティックサービス  
・急性期病院における臨死患者のケア  
・ケア, ケアの倫理, 家族内のケア  
・アドバンス ケア プランニング

参加人数: 113名

### 3. 研修生の受け入れ

医療職のためのホスピス研修（6名）  
東京医療センター 医師（4），秋本病院 医師（1），自治医科大学附属病院 看護師（1）  
緩和ケアナース養成研修（10名）  
日本看護協会「緩和ケアナース養成研修」  
回心堂第二病院（1），岩手県立二戸病院（1），足利赤十字病院（1），長野赤十字病院（1），横浜労災病院（1），米沢市立病院（1），済生会中和病院（1），医療法人社団都会渡辺西賀茂診療所（1），新潟医療センター（1），大分ゆふみ病院（1）  
神奈川県看護協会緩和ケア認定看護師教育課程研修生（30名）  
全受講生対象（含む教員）一日研修（30）  
同教育課程臨床研修：水戸医療センター（1），東葛病院（1），山形県立新庄病院（1），富士宮市立病院（1）  
医学生のためのホスピス研修（9名）  
東海大学医学部（9）  
看護大学院生のためのホスピス研修（5名）  
自治医科大学大学院看護学研究科（5）  
ホスピス体験実習（17名）  
神奈川県立七里ヶ浜高等学校（9），神奈川県立秦野首屋高等学校（5），ルーテル学院大学（2），東京女子医科大学（1）

### 4. ピースハウス見学者への対応 50件 655名

主な見学団体

公立八女総合病院，救世軍ブース記念病院，けいゆう病院，海老名総合病院，関東中央病院，吉祥寺ホーム，足柄療護園，鎌倉市社会福祉協議会民生委員，南足柄市社会福祉協議会千津島地域福祉会，平塚市なでしこ地区民生委員，大磯町民生委員，二宮町社会福祉協議会富士見ヶ丘松根地区社協部会，中井町北窪自治会健康普及員，神奈川県医療社会事業協会，日韓ボランティア交流プログラム参加者，横浜いのちの電話Mグループ，（財）高速道路交流推進財団など

### 5. 事例検討会

期間：2009年4月～2010年3月（10回）

主なテーマ

- ・響き合う痛み - 経済的負担が他の痛みに大きな影響を与えていたと考えられる事例
- ・ホスピス緩和ケアにおける家族ケアのあり方 - 患者をサポートする力の弱い家族との関わりを通して考える -

- ・家族の看取りへの準備を支えるためのケアとは
- ・患者の声に耳を傾ける - 辛い，死にたい，終わりにしたいと訴える患者のケアを通して -
- ・在宅ホスピス緩和ケア - ケアの実際と訪問看護の役割 -
- ・せん妄症状がある患者へのケア

延参加人数：193名

### 6. ホスピスケア研究会

期間：2009年5月～2010年2月（8回）

主なテーマ

- ・悩む力
- ・傷つくということ
- ・私とホスピス
- ・いのちの旅 - また春がめぐってきました -

延参加人数：59名

### 7. Study Day 症状マネジメントを学ぶ

期間：2009年5月～2010年3月（5回）

主なテーマ

- ・疼痛マネジメント - 明日からの痛みのケアプランが変わる -
- ・エンゼルケアの基礎知識と実践 - その人らしさを尊重するケア -
- ・リンパ浮腫 - リンパ浮腫のアセスメントとマッサージ -
- ・口腔ケアの基礎とケアシートの記載方法について

延参加人数：87名

### 8. 地域緩和ケア研究会

期間：2009年4月～2010年1月（5回）

主なテーマ

- ・癌のある高齢者への療養支援について
- ・患者・家族の希望に添った療養場所の選択について
- ・慢性疾患を持つ患者の在宅ケア - 病状の進行とチームケア -
- ・地域につなげる退院指導 - 痛み日記を用いて -
- ・在宅療養支援診療所における緩和ケアの実際 - ピースホスピスホネート製剤が有効であった大腸癌多発骨転移の1例 -

延参加人数：226名

### 9. 研究所会員制度

（図書貸出，文献検索サービスなど）

会員数 24名

### 10. 機関誌発行

ピースハウス活動報告（ふれんず Issue No.15）

5,000部

# ホスピスサポート活動

2009年度も多くの方々のご支援をいただきながらホスピスケアを続けて参りました。2009年度の支援活動をご紹介します。

## ・府中はなみずき

地元府中でバザーを開催し、その資金をもとにピースハウスでケアにあたるスタッフの希望を織り込んだ数々の手作り介護用品や備品の提供、美容室の運営サポートなどを通じ開院以来連綿と支援を続けていただいています。

## ・ホスピスサポートチーム

会員の寄付金その他、コンサート、講演会、ミニバザー、書籍販売などの収益金でチャトルバスの購入から運行までピースハウスへの足を支えて下さっている開院以来の財団ボランティアによる支援団体です。

## ・姫由美子と素敵な仲間たち

毎年5月に横浜においてテnderラブコンサート(ピースハウスチャリティコンサート)とバザーを開催、ご寄付を継続していただいております。

## ・夢コンサート

N響チェロ奏者徳永兼一郎さんを偲ぶ第13回夢コンサートでご寄付をいただきました。

## ・ピースハウス友の会

開院と同時に設けられた後援会。ピースハウスのために継続的にご寄付をいただいています。一時的な運営のための寄付を合わせると2009年度は1,600万円を越えるご寄付を頂きました。

## ・ピースハウスボランティア支援寄付

ピースハウスの玄関にある総合受付に設置された献金箱には毎年沢山のご寄付をいただきますが、2009年度は約50万円の支援金をいただきました。

## ・クリスマスイベント

例年通り12月24日のイブには中井町友愛教会の皆さんのキャロリングがあり、またクリスマスの一週間はテルモの光のプレゼントが送られ25日にはテルモ男声合唱団のコーラスと打ち上げ花火が行われました。

## ・その他の個人

毎年クリスマスに縫いぐるみやお菓子をプレゼント下さる方、フレンズショップに恒常的に手作り品をご寄付下さる方、介護用古布を送って下さる方、数え切れないほどの無名の善意の方々のご支援をいただきました。

ピースハウスボランティアコーディネーター  
志村 靖雄

# ピースハウス 家族の会

『4月10日の家族の会に出席して本当に楽しかったです。初めてのなので心細いから嫁と2人で参加しました。コンサートを生で聴くなんて久しぶり、最高でした。アンコールで皆で歌って、何もかも忘れて声が出ました』

この春、藤沢のホテルで開催した春の懇親会に参加された方からのお便りです。

『悠友ありがとうございます。いつもながら、心の内を見事に表現なさる文章に触れ、目頭を熱くして拝読しています。文章から伝わる場面が、迷い悩んだ日々と重なり、皆さんも同じなんだ、これでいいんだ!と力づけられます。家族へのアフターケアとして本当に有難く思います。』

会報『悠友』を読んだ方からのお便りです。

家族の会は1997年に発足以来、今年5月までに春秋の定期懇親会が27回、会報『悠友』47号、小さな集まり『ぶらっとスポット』は83回というような活動を続けてきました。“ピースハウスへ行くのがつらい”という方の為に、懇親会をホテルで行ったり、ぶらっとスポットも、軽いハイキング等で野外に出かけることもあります。いずれも、ピースハウスで行うよりも多くの方達が参加されます。

新しく入会される方がいる一方で、高齢を理由に、あるいは「元気になって、新しい仕事を始めました」と退会される方もあります。

これ迄に入会された方は440名程ですが、退会者も多く、ここ数年の会員数は200名程となっています。時折届く、会員からのお便りと、懇親会等に参加される毎に次第に多くなる笑顔や、話題の明るさが、ボランティアとして会のお世話をする私達、役員のヤリガイであり、原動力ともなっています。

ピースハウス家族の会 会長 増淵 志計男



# 入退院状況 (2009年4月～2010年3月)

2009年度の入院患者は199名（延べ214名，前年比14%減），延べ6,120名（4.7%減）であった。性別では，わずかに男性が多く，平均年齢は74.3歳と徐々に上昇してきている。平均入院日数は約28.5日であった。

原発疾患については，最近の例にもれず肺癌が最も多かった。患者住所は92%が神奈川県であり，その3分の2が湘南西部・県西部であった。これらの特徴はこの数年ほとんど変わっていない。

## 入退院状況 (2009年4月～2010年3月)

- (1) 入院患者数 199名，延べ214名
- (2) 男女別 男112名 女102名
- (3) 平均年齢 74.3歳
- (4) 平均在院日数 28.5日
- (5) 原発疾患

肺癌	44	胃癌	23	結腸癌	15
直腸癌	13	膵癌	12	卵巣癌	9
前立腺癌	8	咽頭癌	7	乳癌	7
食道癌	7	腎癌	6	子宮癌	5
膀胱癌	5	脳腫瘍	5	尿管癌	5
口腔癌	3	胆嚢癌	3	その他	22

## (6) 患者住所分布

神奈川県	182	東京都	12	静岡県他	5
------	-----	-----	----	------	---

## (7) 神奈川県の内訳

平塚市	31	秦野市	25	足柄上郡	18
小田原市	18	横浜市	14	中郡	13
伊勢原市	9	厚木市	9	相模原市	9
藤沢市	6	南足柄市	5	足柄下郡	4
鎌倉市	4	茅ヶ崎市	4	海老名市	4
座間市	4	大和市	2	川崎市	2
逗子市	1				

## (8) 紹介病院一覧

東海大学医学部付属病院	40
東海大学大磯病院	14
平塚共済病院	13
小田原市立病院	13
平塚市民病院	12
秦野赤十字病院	11
北里大学病院	8
足柄上病院	7
神奈川県立がんセンター	6
伊勢原協同病院	5
藤沢市民病院	5
国立がんセンター	4
神奈川病院	3
北里大学東病院	3

### 以下各2件

栄共済病院・横浜南共済病院・都立駒込病院・海老名総合病院・山近記念病院・厚木市立病院・聖路加国際病院・聖隷横浜病院

その他 39施設 各1件

自宅に退院したケースは昨年度9名（4%）であったが，本年度は21名（9.8%）と増加している。当初からレスパイトケア目的（家族の休息のため）の入院が3名あった。また，症状マネジメント目的で入院し退院するケースもあった。今後，在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションと連携して，また，ピースハウス外来通院からの移行など，住み慣れた家で療養を継続でき，必要な時に短期間入院し目的を達成したら自宅に戻るなどの利用方法にタイミングよく対応できる仕組みを一層強化していきたい。

# ホスピスケアを受けるために

ピースハウス病院は、主に治癒が困難ながんの患者さんとご家族に、ホスピス緩和ケアを提供する病院です。入院によるケアだけでなく、外来診療、また、訪問看護ステーションと協力して、在宅ホスピスケアも行なっています。

ケア開始にあたり、ホスピス緩和ケアについてご理解頂くことと、患者さんの現在のご様子について事前に把握させて頂くため、患者さんやご家族と面談の機会を設けております。

## 相談の窓口

ピースハウス病院では、下記の相談についての相談窓口を設けています。

1. 入院に関する相談
2. 外来や訪問診療に関する相談
3. ホスピスに関する一般的な相談
4. ホスピスケアを受けながらの生活に関する相談

これらの相談窓口は、ソーシャルワーカーや看護師が担当しております。また、ホスピス相談には予約が必要ですので、まずは、電話でご連絡下さい。  
電話 0465 - 81 - 8900 (代)

## 相談に必要な医療情報

相談に来院して頂く際には、以下の4点の医療情報が必要です。

1. 診療情報提供書 (各医療機関の用紙)
2. 最近の検査データ (血液・尿検査・感染症・血液型を含む)
3. 現在の症状が判るレントゲンやCTなどの画像情報
4. ホスピスケア判定用質問用紙 (当院様式)

## 入院までの流れ

相談からケア開始までの流れは以下の通りです。

1. 電話による相談 (ホスピス相談の予約)



2. ホスピス相談



3. ホスピスケア判定会議  
(当院スタッフがケアの開始に必要な事柄について検討)



4. ホスピスケアの開始  
(入院に関しては、判定会議からケア開始までベッドを待つ期間が生じる場合があります。)

なお、ピースハウス病院では、病名告知は必須条件ではありません。患者さんが治癒困難である病状であることを認識し、ホスピスの趣旨を理解されていれば、ピースハウスでのケアを受けることができます。

## 入院費用

医療費に関しては健康保険が適用されます。患者さんによって、高額療養費制度や高齢者医療制度が利用できます。また、保険適用外として、差額ベッド代があります。(4人部屋は差額ベッド代なし)

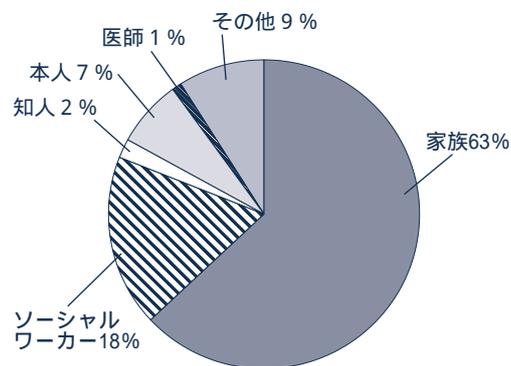
当院に関する情報はインターネットでもご覧頂けます。<http://www.peacehouse.jp/>

## 2009年度の相談状況

相談件数：808件

内 訳

家 族	515件	本 人	54件
ソーシャルワーカー	146件	医 師	5件
知 人	17件	そ の 他	71件



## 施設内容とスタッフ

### 病床数・形態

届出緩和ケア病床（個室14室，4床室2室），  
独立型（2階建，1階病棟，2階ホスピス教育研究所）

### スタッフ

専任医師3名，看護師23名，看護助手3名，  
病棟事務1名，薬剤師2名，MSW1名，チャ  
プレン1名，音楽療法士1名，管理栄養士2  
名，キッチンスタッフ5名，事務員4名，ハ  
ウスキーパー6名，ボランティアコーディネ  
ーター1名，ボランティア95名，運転スタッフ  
3名，教育研究所5名

### 看護体制

プライマリナーシング（受持ち制）

### 総面積

敷地面積：13,053㎡ 建築面積：1,989㎡  
延床面積：3,422㎡ 個室面積：20～23㎡

差額ベッド代 個室以外は無料，個室1日  
18,900円（税込み）

### 交通

小田急線秦野駅・JR東海道線二宮駅よりい  
ずれも車で15分  
2駅と病院間に定時のシャトルバス有り

## 2009年度収支報告

2009年度の延入院患者数は，6,120人，1日当  
り平均在院患者数は，16.8人，平均ベッド稼働率は  
76.2%でした。

経常収入	335,276 千円
経常支出	341,095
当期経常収支差額	5,819
寄附金・会費収入	16,066
当期収支差額	10,247 千円

## 寄付報告

運営のためのご寄付	120件	12,586 千円
友の会会費	175件	3,210 千円
か と れ あ 会 員	6件	600 千円
は な み ず き 会 員	13件	650 千円
ば ら 会 員	20件	600 千円
さ く ら 会 員	136件	1,360 千円
合 計	295件	15,796 千円

## ピースハウスをご支援下さい

2010年9月にピースハウス病院は，開設満17周年を迎えます。

これまでの皆様方からのご寄附，募金，会費に対し深く感謝すると共に今後のご支援もなにとぞよろしく  
お願い申し上げます。

### ご支援いただくには次の方法があります

#### 1) 運営のための寄付

随時受け付けています。

#### 2) ピースハウス友の会

特定の金額を年会費としてご寄付くださる方の会です  
（年によってどの会員でも選べます）。

かとれあ会員 10万円以上 はなみずき会員 5万円  
ばら会員 3万円 さくら会員 1万円

#### [振込先]

郵便振替口座 00130 - 6 - 407939  
加入者名 助ライフ・プランニングセンター  
ピース・ハウス募金口

備考欄に「運営のための寄付」か「 会員」をご記入下さい。

#### [お問い合わせ先]

ピースハウス / 寄付担当（志村）

TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520



財団法人  
ライフ・プランニング・センター  
ピースハウスホスピス

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000 - 1  
TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520  
ホームページ <http://www.peacehouse.jp/>